

拝啓 今年も早や 10 月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園には、早や秋の紅葉が少し始まりかけました。

今回は、小西芳之助先生の『コリント人への第一の手紙講解説教』からの引用の 5 回目ですが、今回のエンカウンターの 4 ページ、「ただ一向に称名すべし」という項には、次のように書かれています。

「来年、法然上人の開宗 800 年となりますが、法然は、「念仏を信ぜん人は、たとひ一代の法をよくよく学すとも、一文不知の愚鈍の身になして、尼入道の無知のともがらに同じうして、智者のふるまいをせずして、只一向に念仏すべし」（一枚起請文）と言われました。…日本歴史において、一人の宗教家を挙げよと言われたら、私は法然上人をあげます。その学問において、その人格において、その識見において、この人をあげたい。この人が、この起請文の中で、一代の法をよくよく勉強していても、自分の知恵を捨てよと言っています。イエスは「幼子の如くならずば、天国に入るに能わず」と言われました。我々は、自分の知恵を捨てて、福音の知恵、十字架の救いの知恵をもう一度知りたいと思います。」

法然上人の生れたところは岡山県津山市の少し南、津山線の誕生寺という駅の近くです。そこに誕生寺という立派なお寺が建てられており、昭和 43 年、田淵謹也君の結婚式の司式に岡山に行かれた小西先生と私と阿部達雄君は母の友人の松田浄子さんの運転する車で、誕生寺を訪れたことがあります。小西先生が、これほどまで尊敬する人は法然上人であり、岡山県生まれの者として誇りに思っている次第です。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

#### **小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』10月14日**

「有名な英語の先生であった神田乃武先生はこう言われた。「平凡なことをなさんと試みるなかれ。平凡なことを非凡に素晴らしくなさんと試みよ」と。私は、中学時代に、これを暗記した。しかし、どうしても忘れることは出来なかった。年をとればとるほど、この文句が好きになる。私達は、偉大なことにして、非平凡なことをなしたいと思う。しかし、平凡なことを素晴らしくなさんと努力することなしには、偉大なことを成すことは出来ない。しかし、平凡なことを素晴らしくなさんとすることなしには、偉大なことをなすことは出来ない。そのわけは、平凡なことを素晴らしくなさんとすることによってのみ、偉大なことをなす力が与えられるからである。」

#### **新渡戸稲造先生『一日一言』10月21日**

「西暦 1805 年の今日、英将ネルソンが戦死する間際に、「余は余の義務を尽くせり」と叫んだ。際限なきは勤めなり。一つ済むと思えばまた一つ。それを果たせばまた新たに起こる。かく、勤めは無限数なれども、ありがたき事には、幾つもある勤めが同時には来ぬ。故の一つずつ尽くして行けば、たくさん余りありとも、天も人も己も責めぬ。」

#### **松下幸之助先生『道を開く』「敬う心」**

「学校の先生を軽んじ、師と仰ぐ気持ちがなかったら、先生も教える張り合いがないし、

生徒も学びが身につかない。社会にとっても大きな損失である。やはり聖職としての先生を敬い、謙虚に師事する姿から、一言一句が身につき成長する。親を大事にし、上司に敬意をはらう。先輩に礼をつくし、師匠に懸命に仕える。親や師に対するだけではない。よき仕事をする人をこころから尊敬し、一隅を照らすひとにも頭を下げる。」

#### 内村鑑三先生『統一日一生』9月7日

「神の教えであるキリスト教は、了解（わか）ってわかるものではない。信じて了解る者である。了解らないから信ずるのである。了解れば信ずるの必要はない。そして了解ってしまつて信ずるの必要な宗教は、真の宗教ではないから、了解る必要のないものである。宗教はもとこれ信ずべき者であつて、了解るべきものでない。信ずればこそ宗教に能力があるのである。キリスト教が神の教えである最も明らかなる証拠は、それが了解りそうで了解らないことにおいてある。…キリスト教は信ぜずしては到底わからない。」

#### パークレー先生『統一日一章』9月13日

「小さな子供にとっては、世界は母親を中心に動いている。父親は仕事の性質上、家に行かないことが多い。母親は、仕事の性質上、いつも家にいる。だから母親は、他の誰よりも、子供にとって必要である。家の中にあつてイエスの言葉は、特に真実性を帯びてくる。「あなたたちの間で、偉くなりたいと思う者は、仕える人となりなさい」（マルコ10・43）人間生活における家庭の比重は非常に重く、妻であり母であることは、労働者であると同時に社長であることであり、またみんなの召使であると同時にみんなの上に立つ女王であることなのである。」

#### カウマン先生『山頂を目指して』9月30日

「朝は、驚くべき光、露の新鮮さ、音楽、喜び、そして約束の時である！ そして青年は、人生の朝にいるのである。それは麗しい光、喜ばしい音楽、露の優美さ、素晴らしい喜び、もたらされるべき約束の時である。それはビジョンの時であり、崇高な、幸福な、そして多様な、大望と熱心の時である。それは翼の時である。なぜなら、高く上がろうとする者は翼をもっていなければならないから、そして、朝はその翼を持っているとき時だからである。朝の二つの翼は、信仰と誠実である。」

10月16日（土）、東大ホームカミングデーの南原繁セミナーで、元東京大学経済学部長の神野直彦先生の「ポスト福祉国家を考える——南原繁の言葉を導き星にして——」と題してご講演頂きました。少し難しい所もありましたが、よいセミナーでした。

10月19日、妻が、8年前に摘出したがんの再発で、入院しました。どうぞ元気回復するようお祈り下さいますようお願いいたします。

新型コロナの感染者数が、信じられないほど、急速にダウンしました。しかし、マスク、手洗い、うがいなどはこれまで同様注意され実行されて、お体には十分ご注意下さるようお祈り申し上げます。

10月26日

山口周三

エンカウンター読者の各位